

福井工業大学

後援会会報

Fukui University of Technology 2016

平成28年9月15日発行

53

福井工業大学
後援会

〒910-8505 福井市学園3丁目6番1号
電話(0776)29-7864
FAX(0776)29-7891
E-mail syomu-u@fukui-ut.ac.jp



特集

羽ばたく学生たち [12~15P]

学科から保護者の皆様へ [16~23P]

- ・平成28年度 福井工業大学後援会定期総会報告 [2~3P]
- ・平成28年度 地区懇談会報告 [4~5P]
- ・学内奨学金制度紹介 [7P]
- ・大学院紹介 [8~9P]
- ・キャリアセンター就職支援課 [10~11P]
- ・第53回 福井工業大学 大学祭のご案内 [24P]

秋季保護者個別懇談会のご案内 [6P]

参加申込期限は9月30日(金)です。





平成28年度

後援会定期総会報告について

平成二十八年五月二十八日(土)に福井工業大学福井キャンパスにおいて平成二十八年年度福井工業大学後援会定期総会が開催されました。

総会には、森島学長をはじめとする大学役員の出席を賜り、学長挨拶では、森島学長より、大学の教育方針や取組を含めた大学の説明や、大学を取り巻く社会的環境等についてお話がありました。

議案審議前に酒井議長より今年度、総会員数二二九三名の中、委任状八六二名、総会六十名の出席をもって、後援会規約第九条第四項により総会成立の報告がされました。

報告議案では、第一号議案「平成二十七年度事業報告」、第二号議案「平成二十七年度収支決算報告」について一括して事務局より説明が行われました。

併せて橋本監事より、決算が適正執行されている監査報告があり、両議案とも満場一致で承認されました。平成二十七年度事業の報告議案が承認されたところで、後援会役員任期が満了となった十二名の方へ森島学長より感謝の言葉と感謝状、額縁が贈呈されました。

協議議案では、第三号議案「役員選出」、第四号議案「平成二十八年度事業計画及び収支予算」が審議されました。

役員選出では、役員会にて選出された十六名の役員について審議が行われ、副会長に西澤徳一郎氏(新任)、監事に中山弘一氏(新任)、新任理事十四名について事務局より報告され、満場一致で承認されました。

平成二十八年度事業計画及び収支予算については、「保護者懇談会事業」「学生活動支援事業」「広報・通信事業」について年次計画の説明が行われました。また、収支予算として、昨年度をベースに大学祭補助金と学生ランチチケットに関する試験的事業の増額について説明が行われ、満場一致で承認されました。

全ての議案が承認され、総会は閉会されました。

平成28年度 福井工業大学後援会役員

会長 福井県 酒井 保典

副会長 和歌山県 西山 浩己

副会長 山梨県 西澤 徳一郎

監事 福井県 橋本 尚一

監事 福井県 中上 弘一

理事	香川県	葛岡 輝
理事	新潟県	吉野 信秀
理事	福井県	大谷 真亮
理事	岐阜県	竹下 克則
理事	兵庫県	安井 修
理事	福井県	木戸 誠
理事	福岡県	坂田 賢子
理事	福岡県	播重 心子
理事	福井県	岡田 博子
理事	新潟県	亀山 元文
理事	京都府	大原 弘資
理事	福井県	田中 和美
理事	富山県	牧野 恵美
理事	福井県	森安 玲子
理事	富山県	寺部 静祐

理事	富山県	遠 良之
理事	福井県	家根田 文代
理事	福井県	杉野 一美
理事	福井県	中屋 斉明
理事	福井県	武田 美奈
理事	福井県	竹内 清訓
理事	福井県	上田 厚美
理事	愛知県	佐々木 里美
理事	福井県	湯浅 英雅
理事	富山県	細川 幸恵
理事	滋賀県	今庄 和子
理事	石川県	紺谷 和徳
理事	福井県	竹本 薫
理事	福井県	藤田 美津子
理事	石川県	的場 尚

理事	兵庫県	榊 康博
理事	福岡県	久島 美紀
理事	和歌山県	梁村 晃幸
理事	新潟県	中谷内 美昭
理事	福井県	和田 真一
理事	福井県	入場 賢則
理事	福井県	東川 千里
理事	富山県	米澤 弘子
理事	兵庫県	山本 修一
理事	富山県	松井 義行
理事	富山県	川村 美貴子
理事	滋賀県	中西 有
理事	石川県	中山 信吾
理事	福井県	齋木 るい子
理事	福井県	石田 祥美

(順不同)

平成28年度 収支予算書

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

[収入の部] (単位 円)

項目	前年度決算額	本年度予算額	差引	備考
会費	16,815,000	16,500,000	△ 315,000	
会費	16,815,000	16,500,000		@7,500×2,200名
雑収入	62,725	250,000	187,275	
雑収入	62,725	250,000		預金利子等
繰越金	15,936,820	15,741,139	△ 195,681	
前年度繰越金	15,936,820	15,741,139		
収入合計	32,814,545	32,491,139		

[支出の部] (単位 円)

項目	前年度決算額	本年度予算額	差引	備考
会議費	445,530	650,000	204,470	
会議費	445,530	650,000		定期総会、役員会等諸経費
需要費	246,793	650,000	403,207	
消耗品費	324	100,000		事務用品
通信費	66,573	400,000		定期総会、役員会等案内発送
印刷費	179,896	150,000		上記案内資料等印刷代
事業費	14,632,617	17,200,000	2,567,383	
厚生補導費	658,000	2,200,000		新入生歓迎パーティー運営費 インフルエンザ予防接種 学食チケット
クラブ活動費	7,583,676	8,000,000		地区大会、全国大会出場補助
英語留学支援費	1,134,000	1,500,000		海外語学研修、TOEIC 受験補助
就職支援費	1,427,860	1,500,000		就活手帳配布、キャリアセンター事業
地区活動費	2,267,614	2,500,000		地区懇談会(春季・秋季)実施費用
創立記念積立金	300,000	300,000		
会報発行費	1,261,467	1,200,000		4月・9月会報発行
慶弔費	70,000	150,000	80,000	
慶弔費	70,000	150,000		
旅費	875,000	1,000,000	125,000	
旅費	875,000	1,000,000		式典等における役員移動費
大学祭補助費	700,000	1,000,000	300,000	
大学祭補助費	700,000	1,000,000		
雑費	103,466	30,000	△ 73,466	
雑費	103,466	30,000		
予備費	0	11,811,139		
予備費		11,811,139		
支出小計	17,073,406	32,491,139		
繰越金	15,741,139	0		
次年度繰越金	15,741,139	0		
支出合計	32,814,545	32,491,139		

[積立金会計] (単位 円)

名称	前年度残高	今年度積立額	今年度取崩額	今年度末残高	備考
創立70周年記念積立金	1,800,936	300,000	0	2,100,936	

平成27年度 収支決算書

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

[収入の部] (単位 円)

項目	予算額	決算額	差引	備考
会費	16,000,000	16,815,000	815,000	
会費	16,000,000	16,815,000	815,000	
雑収入	70,000	62,725	△ 7,275	
雑収入	70,000	62,725	△ 7,275	預金利子、学園からの収入
繰越金	15,936,820	15,936,820	0	
前年度繰越金	15,936,820	15,936,820	0	
収入合計	32,006,820	32,814,545	807,725	

[支出の部] (単位 円)

項目	予算額	決算額	差引	備考
会議費	600,000	445,530	△ 154,470	
会議費	600,000	445,530	△ 154,470	定期総会、役員会等諸経費
需要費	360,000	246,793	△ 113,207	
消耗品費	30,000	324	△ 29,676	事務用品
通信費	150,000	66,573	△ 83,427	定期総会、役員会等案内発送
印刷費	180,000	179,896	△ 104	上記案内資料等印刷代
事業費	16,000,000	14,632,617	△ 1,367,383	
厚生補導費	700,000	658,000	△ 42,000	新入生歓迎パーティー運営費 インフルエンザ予防接種
クラブ活動費	8,000,000	7,583,676	△ 416,324	地区大会、全国大会出場補助
英語留学支援費	1,500,000	1,134,000	△ 366,000	海外語学研修、TOEIC 団体受験補助
就職支援費	1,500,000	1,427,860	△ 72,140	就活手帳配布、キャリアセンター事業
地区活動費	2,500,000	2,267,614	△ 232,386	地区懇談会(春季・秋季)実施費用
創立記念積立金	300,000	300,000	0	
会報発行費	1,500,000	1,261,467	△ 238,533	4月・9月会報発行
慶弔費	200,000	70,000	△ 130,000	
慶弔費	200,000	70,000	△ 130,000	
旅費	1,000,000	875,000	△ 125,000	
旅費	1,000,000	875,000	△ 125,000	式典等における役員移動費
大学祭補助費	700,000	700,000	0	
大学祭補助費	700,000	700,000	0	
雑費	104,000	103,466	△ 534	101,000円予備費より振替
雑費	104,000	103,466	△ 534	65・50周年記念祝賀会御祝
予備費	13,042,820	0	13,042,820	101,000円雑費へ振替
予備費	13,042,820	0	13,042,820	
支出小計	32,006,820	17,073,406	0	
繰越金	0	15,741,139	15,741,139	
次年度繰越金	0	15,741,139	15,741,139	
支出合計	32,006,820	32,814,545	807,725	

[積立金会計] (単位 円)

名称	前年度残高	今年度積立額	今年度取崩額	今年度末残高	備考
創立70周年記念積立金	1,500,622	300,314	0	1,800,936	

ご挨拶

福井工業大学後援会

会長 酒井 保典

晴れやかな秋空と爽やかな風が心地よい季節となりました。今日この頃、会員の皆様におかれましては如何お過ごしでしょうか。また、日頃より後援会活動に対しまして、多大なるご理解とご支援を賜り、誠に有り難う御座います。

去る五月二十八日に開催されました、平成二十八年年度福井工業大学後援会定期総会に於いて役員が改選され、昨年に引き続き会長職を預らせていただく事となりました。酒井保典と申します。皆様のご協力のもと精一杯務めさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

皆様もご存じの通り、福井工業大学は昨年開学五十周年を迎えました。お陰様でここ近年は学生数も順調に増え、定員二、〇〇〇名に対し今年度は二、二〇〇名を超える学生が在籍する大学となりました。大学院への進学者も年々増加傾向にあり、全国的にみても確実に発展・繁栄が進む数少ない大学の一つです。われわれ後援会も「全ては学生、生徒のために」の言葉をスローガンに、多方面からの支援を行ってまいります。

後援会活動としては、「保護者懇談会事業（各地区懇談会等）」、「学生活動支援事業（全国大会等出場クラブへの参加費補助、就職活動に関する事業費補助、TOEIC受験料の補助等）」、「広報・通信事業（後援会会報の発行等）」の三本柱を中心に支援を行っていただいております。

その中でも、活動の柱となっている保護者懇談会事業・各地区懇談会におきましては、五月二十八日の福井会場を皮切りに、石川、名古屋、大阪、富山の五会場で開催させていただき、延べ二二三名もの会員の皆様にご参加をいただきました。当日は森島学長はじめ、大学の先生方、職員の皆様、同窓会の皆様、各地区の後援会の皆様のお力添えのもと、大変有意義な時間を共有させていただきました。この様な取り組みは大学としては非常に珍しく、これからも皆様から頂きましたご意見をもちに、会員皆様方から求められる地区懇談会を継続してまいります。改めてご参加いただきました会員の皆様、また大学関係者の皆様、各種役員の皆様に御礼申し上げます。

十月には本誌のご案内の通り「秋季保護者懇談会」を開催させていただきました。当日は大学祭の期間中となりますので、会員の皆様におかれましては、是非この機会に工大キャンパスのご散策に足をお運びいただけましたら幸いです。

二〇一八年には福井国体、二〇二〇年には東京オリンピックピックが開催されます。今、日本がそして福井が注目される中、時代の変化に柔軟に対応し日々進化を続ける福井工業大学。その進化の一翼を担えるよう、われわれ後援会も活動を続けてまいりますので、今後とも皆様方のご協力をお願いし、簡単ではございますが会長就任のご挨拶に代えさせていただきます。

福井工業大学後援会

副会長 西山 浩己

拝啓 草木の緑も一段と濃くなってきましたが、お健やかに過ごしのことと存じます。

日ごろは福井工業大学後援会活動にご理解を頂き誠にありがとうございます。

去る六月二十六日、本学鈴木副学長はじめ諸先生方及び、職員の方々並びに、卒業された諸先輩方の御臨席を賜り、平成二十八年年度後援会関西地区懇談会を開催しました。

ご出席頂きました保護者の皆様ご苦労様でした。

懇談会冒頭、鈴木副学長より、昨年本学開学五十周年を迎え、本年からは新たな一ページを刻むべく取り組むお話がありました。その後、本学在学生在が登場したDVDを視聴し、続いて、本学組織、就職支援活動等について説明を受けました。

昨年四月、本学は工学部、環境・情報学部、スポーツ健康科学部の三学部八学科に再編し、現在の学生数は二、〇〇〇人を超え、活気溢れる現状をお聞きし、保護者の一人として嬉しく感じました。

また、学生が学業だけでなくクラブ活動を通じて、いろんな分野で活躍していることに頼もしさを感じました。その一例として、硬式野球部は春のリーグ戦を終え、全日本大学野球選手権に六年連続三十九回目の出場をなし、今回の出場大学中最多出場という実績を残して頂きました。それぞれの活躍により、魅力ある本学を全国に配信して頂きたいと思えます。

最後に私の息子も四回生で、進路について目標をもって頑張っています。保護者の皆様、たとえ、福井に行けなくても、このような機会を通じて、ご子息ご令嬢のことは勿論の事、本学に関心を持って頂ければ幸いです。今後とも後援会運営にご協力いただけるようよろしくお願い致します。

福井工業大学後援会

副会長 西澤 徳一郎

平成二十八年年度の東海地区懇談会が、六月十九日（日）に名古屋ガーデンパレスにて開催されました。

当日は朝から梅雨空で小雨がちらつく、あいにくの空模様にもかかわらず、十七組二十六名と東海各県から多くの保護者が参加されました。

大学からは池田学長補佐をはじめ十四名の教職員の先生方、同窓会からは三名の役員の方が出席されました。

懇談会の開式にあたり大学を代表され池田学長補佐からごあいさつをいただき、引き続き教育報告会が行なわれました。

冒頭にDVDにて大学の概況が上映され、続いて池田学長補佐から教務、学生生活、進路に関する大学の取り組みの報告がありました。

続いて、同窓会の役員の方から同窓会活動についてのご紹介があり、お仕事の関係の業界団体でも福井工大の卒業生が経営の最前線で多くの方が活躍されているとお話を伺うことができました。

引き続き、就職支援セミナーが開催され就職支援課の渡邊課長から就職についてのご説明がありました。

午後からは懇親会が行なわれ、各学科別に担当教員の先生方と円卓を囲み、和やかな雰囲気の中で、親睦を深めることができました。

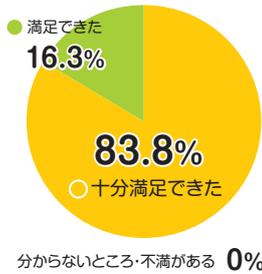
地区懇談会にはじめて参加させていただきましたが大学の近況や学生生活の状況を知ることができたことと同時に、保護者、教職員、同窓会が三位一体となり、本学の永続的発展につなげようとする取り組み姿勢を強く感じることができました。

十月八日（土）に「保護者キャンパス見学会および懇談会」が計画されております。大学の近況や学生生活を知る良い機会であり、後援会員の皆様にはぜひ参加していただければと思います。

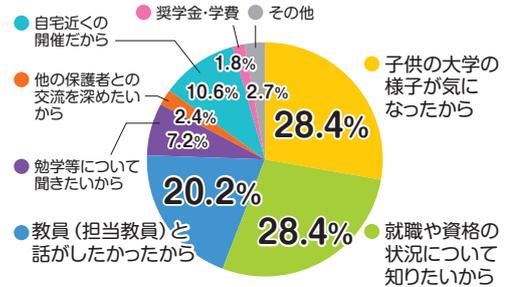


地区懇談会保護者アンケート (たくさんのご回答ありがとうございました)

Q 平成28年度 地区懇談会について



Q 地区懇談会へ参加を決めた理由



Q 昼食を兼ねた大学側・保護者との懇親会の実施について



抜粋

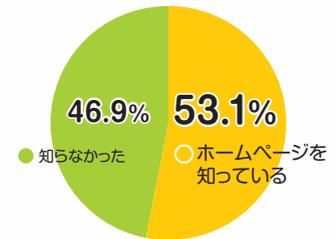
- ・学生主体のプロジェクト活動など知らない情報を聞くことができた。
- ・先生のお話を聞いて大学の様子や成績の事が分かりやすかったです。
- ・ぜひ続けてください。お昼を食べながら先生と皆さんというんな話ができ良かったです。
- ・先生、他の保護者の方と情報交換(交流)が出来るので今後も継続して頂きたいです。
- ・離れているので学校での様子、就職のことなど説明を伺うと安心します。
- ・教授の先生方というとても敷居が高いイメージがあるので、なごやかにお話しできる場があることはうれしいです。
- ・現在3年生ですが1年生の時より参加させて頂いております。とても保護者会を楽しみにして毎年参加させて頂いております。
- ・他の保護者の方のお話も含め、同じ悩み事や大学での生活ぶりを話し合えた。
- ・大学は地理的に遠く、近隣の説明会は保護者にとって大学が身近に感じられる。
- ・先生や他の保護者の方とゆっくり話すことができるので良いと思いました。

Q 教員との個別懇談について

抜粋

- ・たくさん先生とお話が出来てすごく満足です。
- ・色々と気さくにお話しさせていただきました。後期も懇談に出席したいです。
- ・就職の事など具体的に教えて頂けて有難かったです。ありがとうございました。
- ・なかなか本人と話せないので担当教員の方に親の就職希望や学業の成績など話せて良かった。親の方でも学校の就活プログラムの進行状況を知っておかないといけないと思いました。
- ・個別懇談ができて良かったです。福井工大へ行って良かったです。先生も就職セミナーの方もとても親切で今日来て本当に良かったです。
- ・直接の担当ではないが息子の情報をよく知っていたので話がはずんだ。
- ・子どもの様子、学校の事、就職の事など多くの内容を話して頂き、満足できました。
- ・事前に子供と会って話をしてくださっていたみたいで大学側の親切、お気持ちがとてもうれしかったです。

Q 本学ホームページに後援会のページがあります。ご存知でしたか？



Q 大学への意見、要望・ご感想、また今後の懇談会のプログラムの要望

抜粋

- ・資格取得に向けた、サポートを検討頂きたい。(試験費用等の免除や資格取得を目指した特別講義)
- ・富山地区の地区懇談会をもっと早くしてほしい。富山地区に参加しなかったのですが、たしか7月だったので進学とか就職に間に合わないと思い仕方なく石川の懇談会に参加しました。
- ・大学への授業(実験)見学ツアーを企画してほしい。富山県、石川県合同でバスで移動、昼食付で。キャリアセンターも見たい。卒業生の就職後3年間の退職率も教えてほしい。
- ・就職した後の卒業生の活躍を知りたい。離職率等も。
- ・先生にもお話ししましたが、10月の福井での懇談会の時でもクラブのお話が聞けるといいなと思いました。
- ・昼食会では席を決めずに立食スタイルであればより多くの保護者と情報交換ができると思います。



平成28年度 秋季保護者個別懇談会のご案内



教職員との親睦・交流の場として、保護者個別懇談会を開催いたします。
学修状況、就職、学生生活等についてお気軽にご相談下さい。
多数のご出席をお待ちしております。

10/8 土

13:00 ~ 16:00

- 会場** 福井工業大学 福井キャンパス
大学2号館
- 受付** 大学2号館1F 学生ロビー
- 参加方法** 事前申込制
- 申込方法** 福井工業大学 庶務課へ
電話もしくは、E-mailにて
電話：0776-29-7864
E-mail：syomu-u@fukui-ut.ac.jp
- 申込期日** 平成28年9月30日(金)

同日に大学祭を開催しております。
ランチチケットと致しまして、大学祭模擬店
にて利用できるチケットを御配り致します。

内 容

- 学業、就職、学生生活、大学院進学、
カウンセリング等に関する相談について
- キャンパス見学について

- 懇談順は、申込順とさせていただきます。
- 教員手配や資料準備等がございますので、
事前申込をいただきますようお願い致します。

福井工業大学後援会規約

【第1章 名称及び目的】

第1条 本会は、学校法人金井学園福井工業大学後援会と称する。

第2条 本会は、福井工業大学事務局に置く。

第3条 本会は、その目的を達成するために次のことを行う。

第4条 本会は、福井工業大学に在学する学生の親又は親族とする。賛助会員は、本会の趣旨に賛同する者とする。

第5条 1本会に、次の役員を置く。

第6条 2役員は、1年とし再任を妨げない。

第7条 1賛助会員は、役員会において必要に応じて選挙し、会長がこれを任命する。

第8条 1会長は、本会を代表して会務を総括する。

第9条 1定例総会は、毎年1回行う。会長が必要と認めたと

第10条 1本会の経費は、会費及び寄付金をもって充てる。

第11条 1本会の規約は、昭和43年5月16日から施行する。

第12条 1本会の規約は、昭和43年5月16日から施行する。

第13条 1本会の規約は、昭和43年5月16日から施行する。

第14条 1本会の規約は、昭和43年5月16日から施行する。

第15条 1本会の規約は、昭和43年5月16日から施行する。

第16条 1本会の規約は、昭和43年5月16日から施行する。

第17条 1本会の規約は、昭和43年5月16日から施行する。

第18条 1本会の規約は、昭和43年5月16日から施行する。

第19条 1本会の規約は、昭和43年5月16日から施行する。

第20条 1本会の規約は、昭和43年5月16日から施行する。

第21条 1本会の規約は、昭和43年5月16日から施行する。

第22条 1本会の規約は、昭和43年5月16日から施行する。

第23条 1本会の規約は、昭和43年5月16日から施行する。

第24条 1本会の規約は、昭和43年5月16日から施行する。

第25条 1本会の規約は、昭和43年5月16日から施行する。

第26条 1本会の規約は、昭和43年5月16日から施行する。

第27条 1本会の規約は、昭和43年5月16日から施行する。

第28条 1本会の規約は、昭和43年5月16日から施行する。

第29条 1本会の規約は、昭和43年5月16日から施行する。

第30条 1本会の規約は、昭和43年5月16日から施行する。

学内奨学金制度紹介

	奨学金区分	内 容
1	特待生奨学金 [H27年度以前入学者] 授業料50%減免 [H28年度以降入学者] 学納金50%減免	対 象：学部2年次以上及び大学院博士前期課程 条 件：前学期末までの成績 GPA 評価3.80以上 ※博士前期課程1年生前期：学部の成績 それ以降は前学期の成績 募集期間：前期・後期(年2回半期ごと)
2	[H27年度以前入学者のみ] 準特待生奨学金 授業料20% 減免	対 象：学部2年次以上及び大学院博士前期課程 条 件：前学期末までの成績 GPA 評価3.50以上 募集期間：前期・後期(年2回半期ごと)
3	学習奨励金 [H28年度以降入学者] 5万円給付	対 象：学部2年次以上(博士前期・後期課程は対象外) 条 件：前学期の成績 GPA3.80以上かつ前学期の修得単位数 が15単位以上 募集期間：前期・後期(年2回半期ごと)
4	育英奨学金 [H27年度以前入学者] 学納金50%減免 [H28年度以降入学者] 学納金30~70万円減免 [家計急変者] 学納金70万円減免 ※該当年度を適用 (前期なら前後期、 後期なら後期のみ)	対 象：学部2年次以上及び大学院全学年及び家計急変者 条 件：学業成績優秀であり、経済的理由により修学に困難が ある学生、又は本学の定める家計急変事由が発生した 学生 募集期間：前期・後期(年2回半期ごと)
5	[H27年度以前入学者のみ] 学生生活奨学金 月額3万円給付 ※該当年度を適用 (前期なら前後期、 後期なら後期のみ)	対 象：学部2年次以上及び大学院全学年 条 件：経済的理由により修学に困難がある学生、学期末まで の成績 GPA 評価2.80以上 募集期間：前期・後期(年2回半期ごと)
6	スポーツ特待生 奨学金 大会成績等により 学納金又は授業料減免 ※最大4年間。 ただし継続審査あり	対 象：スポーツ・吹奏楽推薦入試による入学予定者及び学部、 大学院全学年 条 件：本学の規程による
7	災害特別奨学金 被害状況により 学納金等減免 又は災害援助金支給	対 象：入学予定者及び学部、大学院全学年 条 件：本学の規程による 募集期間：随時(ただし、被災日より1年以内)
8	兄弟学費減免 奨学金 最年少にあたる学生の 学納金50%減免	対 象：学園の設置する各学校に兄弟姉妹で在籍している最年 少の学生 条 件：学園の設置する各学校に兄弟姉妹で在籍していること 募集期間：毎年4月
9	外国留学奨励 奨学金 学納金の半額を上限に、渡航 費、生活補助費または、留学先 学費の一部補助	対 象：本学学部生2年次以上または工学研究科1年次以上の 者で交換留学生又は認定留学生である者 条 件：本学の規程による
10	大学院進学奨励 奨学金 (第1種) 学納金の半額減免 (第2種) 国立大学標準額と本学 学納金との差額を減免	対 象：本学が指定する入試区分で受験した入学予定者 条 件：本学の規程による
11	離島・沖縄県 出身者支援奨学金 国立大学標準額と本学 学納金との差額を減免	対 象：本学の規程による 条 件：本学の規程による ※最大4年間。毎年度末に継続審査有り
12	特別奨励金 資格取得もしくは優秀な 成績を修めたクラブ等に 奨励金支給	対 象：学部・大学院全学年 条 件：本学の規程による 募集期間：随時

本学大学院 のご紹介

大学院進学への勧め

文部科学省の平成28年度学校基本調査（速報値）によれば、高校卒業者の現役大学進学率は49.5%です。高校卒業者の2人に1人が大学に進学している状況下で、大学在学中の就職活動を有利に展開するためには何らかの差別化を図る必要があります。福井工業大学ではキャリアセンターを中心に学生のキャリア形成や資格取得支援に力を注いでいます。こうしたキャリア形成や資格取得に加え、社会に出てからの活躍の場をさらに広げるための選択肢として大学院進学があります。平成5年度と平成25年度における大学卒業生および大学院修了者の就職動向の比較を文部科学省のWebサイト「参考URL①」で見ることができませんが、製造技術者に占める修士課程修了者の割合は平成5年度（22.5%）から平成25年度（50.4%）の20年間で倍増しています。全国平均で理工系学部の大卒卒業生の約4割が大学院に進学している現状を考えますと、今後製造技術者に占める大学院修了者の割合は増えることはあっても減ることはないと言えます。本学では、学生自身の努力や卒業生の企業での活躍等により、98.5%（平成28年3

月卒業生実績）という全国レベルでもトップクラスの就職率を誇っています。就職先で長年にわたって働くためには、自分で研究開発した製品が社会を支えている、プロジェクトリーダーとしてチームをまとめているなどの達成感や満足度が、より大切であると言えます。ご子息・ご息女が製造技術者や研究開発者として充実感を抱きながら、他の大学院修了者と同じ土俵で互角以上に渡り合えるように大学院進学をお勧めします。

本学大学院のご紹介

本学大学院の工学研究科には、応用理工学専攻と社会システム学専攻の2専攻が設置され、いずれも博士前期課程（修士課程、2年間）と博士後期課程（博士課程、3年間）が設けられています。各専攻には改組前の学部学科に対応したコースがあり、学部からの一貫教育によってより高度な専門知識と技術を身につけることができます（本学大学院の構成については本学ホームページも御覧下さい）。博士前期課程では、2年間で30単位を修得することが修了要件の一つとなっています。学部（4年間で124単位修得）に比べてゆとりがあるように感じられるかもしれませんが、これは大学院では研究に取り組むことが前提になっているからです。研究活動を通して、社会で役立つ論理的思考力や課題解決能力、さらにはプレゼンテーション能力を高めていきます。本学大学院では研究業績等によって在学期間を短縮することもでき、最短3年間で博士（工学）の学位を取得することも可能です（詳しくは学務課にお問い合わせ下さい）。また、大学院学生にはティーチング・アシスタント（TA）として実験や演習等の教育補助業務を依頼しています。TAによる補助業務は、教えることを通じて自ら学ぶという教育的配慮の下に

行われているものであり、TAを経験することによって実力が向上し、人間的にも大きく成長することになります。

進学のための経済的支援

学部の4年間に博士前期課程の2年間が加わるとなると経済的な負担を懸念されることと思います。本学では、大学院入学予定者で、本学での学習意欲を持つ者に対し、選考により学納金を減免する大学院進学奨励奨学金制度があります。第1種は本学学納金50%減免、第2種は本学学納金と国立大学大学院標準額（学納金）の差額を減免します。さらに、本学では大学院入学料が不要なため、入学初年度は国立大学大学院に比べて入学料（282,000円）の分だけ安くなります。また、前述したTA業務では一人当たり月額4〜5万円支給されますので、学納金の大半を賄えることとなります。就職後の初任給も前期課程修了者と学部卒業者とでは月額で2〜3万円の差がありますので、大学院進学に要した費用は比較的短期間の内に取り戻すことができると言えます。

大学院で過ごす年月は密度が高く、極めて有意義です。専門技術者として研究開発部門で活躍するというご子息・ご息女の希望を叶えるために、保護者の皆様方には本学大学院については是非ご一考下さいますようお願い申し上げます。

参考URL① http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/sangaku2/1351875.htm

応用理工学専攻

(博士前期課程／博士後期課程)

電気電子情報工学、宇宙情報科学、機械工学、環境生命化学、原子力技術応用工学の5コースを設置し、各コースの専門分野の教育と研究を行っています。博士前期課程では、広い視野と高度な専門知識・技術、新しい問題提起とその解決能力を備えた創造性豊かな人材を養成。博士後期課程では、基幹あるいは先端理工学分野における目覚ましい科学・技術の発展に対応できる専門知識と応用能力、研究能力を備えた人材を育成します。

電気電子情報工学コース

電力工学、電子材料、デバイス工学、物性工学、制御工学、コンピュータ情報工学の各分野の教育と研究を行い、エネルギー、半導体、デバイス、情報技術などの広い領域で革新を続ける電気電子情報工学分野の研究開発に貢献できる人材を育成します。

宇宙情報科学コース

宇宙環境科学、地球環境計測工学、衛星通信工学、情報処理工学の各分野の教育と研究を行い、宇宙空間を利用する時代に対応できる人材を育成します。

機械工学コース

材料工学、振動工学、流体工学、熱工学、機械システム工学の各分野の教育と研究を行い、あらゆる産業に関わりをもつ機械工学の分野で活躍できる人材を育成します。

環境生命化学コース

応用化学、環境科学、材料科学、応用生物学、生命科学、生体工学の各分野の教育と研究を行い、資源・エネルギー・地球環境・食糧問題等、人類が直面している重要課題の解決や安全で豊かな循環型社会の構築に貢献できる人材を育成します。

原子力技術応用工学コース

原子力工学、原子力発電工学、放射線応用工学の各分野の教育と研究を行い、原子力発電技術分野で高度な専門知識・技術を身につけた人材を育成します。

社会システム学専攻

(博士前期課程／博士後期課程)

土木環境工学、建築学、デザイン学、経営情報学の4コースを設置し、各コースの専門分野の教育と研究を行っています。博士前期課程では、広い視野と高度な専門知識・技術、新しい問題提起とその解決能力を備えた創造性豊かな人材を養成。博士後期課程では、建築や社会基盤の計画・調査・設計・施工・維持管理、デザインによる生活文化や生産・環境・情報の価値創造、プロジェクトマネジメントおよび望ましい情報社会の構築に貢献できる専門知識と応用能力、研究能力を備えた人材を育成します。

土木環境工学コース

土木計画学、水工学、環境工学、地盤工学、構造工学の各分野の教育と研究を通じて、社会基盤施設の計画・施工・維持管理および自然環境の保全を考究し、安全・安心な社会の構築に寄与できる人材を育成します。

建築学コース

建築計画・意匠、建築設計、建築環境・設備、伝統木造建築、建築構造工学の各分野の教育と研究を行い、個々の建築の個性とコンセプトおよび都市・地域社会のコンセプトとの調和を図り、快適な都市・居住空間の実現に貢献できる人材を育成します。

デザイン学コース

生活創造科学、生産・環境デザイン学、情報・伝達デザイン学の各分野の実践的な教育と研究を行い、生活・技術・文化・芸術などの理解の上に、豊かな生活環境を生み出すための魅力的な提案とその実現に貢献できる高度な専門性を備えた人材を養成します。

経営情報学コース

高度情報社会に対応した企業経営および情報通信技術に関する教育と研究を行い、望ましい情報社会の構築に向けて積極的に提言し、貢献できる人材を育成します。

大学院についての問い合わせ：入試課／☎0120-291-780

3年次



就職ガイダンス (年9回)

年9回の就職ガイダンスを実施しています。就職の準備にむけてきめ細かな指導を行っています。

third year student



都市圏就職活動セミナー就職EXPO

インテックス大阪・ポートメッセ名古屋等で開催される『就職EXPO』に参加します。大勢の学生が参加しています。



身だしなみ・メイクアップ講座

化粧品会社スタッフを講師に招き、就職活動に役立つメイクや面接で好印象を与える身だしなみ等をアドバイスしていただきます。



ヴォイストレーニング

現役アナウンサーを講師に招き、面接に必要な『伝わる声』『伝わる話し方』などをアドバイスしていただきます。



Career Center

4年次



学内企業合同説明会

3月と4月に約500社の企業をお招きして、金井講堂にて合同説明会を開催しています。

fourth year student



学内企業個別説明会

全国からたくさんの企業に來学していただき、企業個別説明会を開催しています。

■ 高い就職率を誇る福井工業大学の就職支援

就職活動が本格化する3年次からは、実際の就職試験に万全の体制で臨むことができるよう、ガイダンスやセミナー、各種対策講座などを数多く実施しています。スキルアップに励む学生を応援するために、資格取得支援講座の開講やインターンシップなども行っています。さらに民間企業経験のある職員やキャリアカウンセラーなどの専門職員を学科ごとに配置し、就職担当教員と連携を図りながら、一人ひとりの学生にあった指導に取り組んでいます。

1年次

first year student



自己発見レポート活用ガイダンス
入学時に大学生基礎力調査を受けます。その分析結果を学んで、自分の強みと課題を知り、今後の学生生活に役立てる講座です。

2年次

second year student



業界研究セミナー

県内の企業を訪ねて、企業等の魅力を知り将来の就職に向けて視野を広げてもらうことを目的とした見学ツアーを行っています。

キャリアセンター就職支援課

(大学1号館3階)

キャリアセンター就職支援課は、学生の将来の夢を実現してもらうために、入学時から4年間を通してキャリア形成・就職支援に取り組んでいます。



希望職種や将来の設計など学生との会話から就職先のアドバイスをを行います。

■ 就職実績

〈就職率=(就職決定者÷就職希望者数)×100〉

97.9%

平成25年3月卒

98.1%

平成26年3月卒

98.3%

平成27年3月卒

98.5%

平成28年3月卒

※平成28年5月1日現在

羽ばたく学生たち

1 Robo Cup

会員の皆様は、「グランドチャレンジ」という言葉をご存知でしょうか。グランドチャレンジとは、長期的な視野で、抜本的な技術革新を実現させ、そこで生み出された科学技術を広く社会に還元することを意味します。これまでのグランドチャレンジとしては、1960年代のロボ計画や1990年代のコンピュータチェスがありました。人を月に送るには、非常に過酷な条件下でも機器が正常に動作し続けなければなりません。膨大な機器の部品の一点一点の信頼性の上にシステムの安定した動作が保証されます。このロボ計画では、システムの設計や制御、効率などを研究するシステム工学が発展しました。1997年、チェスの世界チャンピオンのカスバロフにIBMの大型計算機 Deep Blue が勝利し、その過程で計算科学の発展を見ることができました。これらのプロジェクトから派生された科学技術は、今日の高度情報化社会の基盤を成しております。

では、次のグランドチャレンジは何でしょうか。一つに「ロボカップ」があります。「2050年、自律型二足歩行ロボットのサッカーチームが、人に危害を加えることなく知的に動いて、サッカーワールドカップの優勝国チームに勝

つ！」ことを目指し、1992年に日本の研究者たちによって発足したロボット工学と人工知能科学の世界プロジェクトです。近年はサッカー以外にもレスキューロボットや家庭ロボット、ジュニア育成などに裾野が広がり、今年の6月にドイツのライプツィヒで開かれた世界大会では、45カ国以上から3,500人の参加と、大会期間中30,000人以上の見学・訪問者がありました。

本学の経営情報学科では、「授業で学んでいるプログラミング技術の実践の場」と考え、2007年から当学科の学生プロジェクトとして、「サッカー3次元シミュレーションリーグ」(予めプログラミングされたロボットがコンピュータ上の仮想サッカーフィールドで11対11のサッカーゲームを行います)への参加を学生チーム「FUTURE」で始めました。FUTUREは、今年の日本大会で3年連続の優勝、世界大会には8年連続の出場です。これまでの世界大会ではベスト8が最高順位でしたが、昨年、中国の合肥での世界大会で準優勝し、サッカー3次元シミュレーションリーグでは日本のチームとして初めて表彰台に立ちました。手の届くところまで来たロボカップチャンピオン(世界チャンピオン)、キック動

作の高速化や相手のロングパスを封じ込めるマン・ツール・マンディフェンスの強化などプログラムの改良を重ね、3年連続の参加の大学院2年生 恩田航佑 君と初参加の学部2年生 岩永知裕 君の2名が今年の世界大会に挑みました。今年のサッカー3次元シミュレーションリーグは世界から13チームが選ばれ、最終的に7カ国9チームが出場しました(4チームが棄権)。試合は前後半5分ずつで本戦リーグのリーグ割を決める予選リーグは前年の優勝と準優勝チームはシードされます。シードのFUTUREは、同じくシードの前年優勝チームとは対戦せず予選リーグ4戦全勝で1次リーグに進み、1次リーグでは前年3位のポルトガルチームと引き分けて3勝1分けでした。2次リーグでは6勝2敗で準決勝戦に進出し、一度引き分けたポルトガルチームに3-1で勝利し決勝戦に進出しました。決勝戦は前年と同一カードとなり雪辱を期しましたが、善戦および敗戦し、2年連続準優勝でした。

今年の大会は世界中のチームがFUTUREをマークしてくる中での準優勝で、このサッカー3次元シミュレーションリーグで表彰台に立つことができたチームで学生だけのチームはFUTUREだけ

でした。2年連続世界2位として本学の学生が開発したサッカーロボット動作プログラムは世界で証明され高い評価を受けました。ただ、世界一の頂きへはまだ足りないことも分かりました。来年の世界大会は名古屋国際展示場で7月の下旬に開催されます。開催国としてロボカップチャンピオンを目指しサッカーロボットの人工知能の開発に取り組むたいと思います。そして、グランドチャレンジの一翼を担えるように、ロボット工学と人工知能科学の発展にFUTUREが開発したプログラムが寄与したいと思います。

会員の皆様におかれましては、もし機会がございましたら、来年7月、名古屋国際展示場にお越し下さり世界中の研究者や学生、ジュニアリーグに参加している子どもたちの活躍、そして最先端のロボット工学と人工知能科学をご覧いただければ幸いです。

恩田君感想

ロボカップの世界大会に参加するのはこの大会が最後だったので、優勝するためにほぼ毎日研究をし続けプログラム開発をしました。しかしながら、結果は昨年と同じで準優勝でした。優勝チームのアメリカは、ほぼ隙のないロボットの動きをしていて桁違いに強かったです。まだ自分がしっかりとした研究活動を行っていないことを実感させられました。来年は参加できませんが、強いプログラムを後輩に残していくためにより一層研究活動に取り組みたいと思います。

岩永君感想

私は、RoboCup 2016 Leipzig に行き、自分の技術力がまだまだ足りないことを痛感しました。この世界大会に向けてプログラミングに挑戦してきましたが、よいプログラムを作ることができず、チームに余り貢献する事ができませんでした。来年の世界大会では、チームの勝利に貢献できるプログラムを開発したいと思いました。そのために、今回分かった自分の課題を一つ一つ解決して技術を高め、来年の世界大会では胸を張って勝利に貢献したと言えるようになりたいです。

世界一決定戦のキックオフ。FUT-Kは、青口ロボットで左サイドから右サイドへ攻め込みます。



▼表彰式。学生だけのチームとして堂々の準優勝でした！



▲今年の世界大会会場となったライプツィヒメッセ（見本市・国際会議場）の前にて。



▲大会初日。世界一を目指しこれから続く長く熱い戦いを前にしてプログラミングの調整中です。

2 馬術部

福井工業大学馬術部は、全日本学生馬術大会優勝を目標に掲げ、日々の活動に取り組んでいます。馬術競技は、馬と共に行うスポーツであり、馬術を通してスポーツマンとしての礼儀やモラルを身につけ、節義を重んずる人材の育成に努めています。

日々の活動は、金井学園が指定管理者として管理運営する「福井ホースパーク」にて愛馬と共に練習に励んでいます。早朝5時に馬たちの餌やりや馬房掃除などの厩舎作業から始まり、その後人馬のトレーニングを行います。大学での講義終了後には、再び厩舎へ集まり馬たちのケアを行います。当然、馬たちの世話に休日は無く、多くの時間を愛馬と過ごすことでも信頼関係を築いていきます。

昨年は、全日本学生賞典馬場馬術競技大会にて団体6位入賞を果たし、また個人では全日本学生馬術選手権大会7位入賞、女子選手権大会5位入賞を果たしました。平成26年度の女子選手権優勝を含め、平成24年度より継続して全国の舞台

羽ばたく学生たち

でも上位入賞を果たし、着実に成績を残しています。今年度も6月に行われた中部学生馬術大会において全日本への出場権を獲得しており、部員一同、日々の鍛錬に励んでいます。

今後とも後援会の皆様には、格別の御理解と御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



3 硬式野球部

本学硬式野球部は、現在172名で活動を行っています。北陸大学野球春季リーグ戦をはじめとした、公式戦やオープン戦などの試合で活躍するために、毎日練習に取り組んでいます。

大学野球は、春と秋のリーグ戦がメインです。春のリーグ戦で優勝することが出来れば全日本大学野球選手権に出場できます。今年の5月、春季リーグ戦の最終節にて金沢学院大学に勝利し74回目のリーグ優勝をし、同時に6年連続39回目の全日本大学野球選手権大会出場を決めました。全日本大学野球選手権大会で



は1回戦の愛媛大学に4-1で勝利しました。2回戦の上武大学では延長10回の接戦の末、2-3で敗れてしまいました。しかし、この全日本大学野球選手権大会の試合で、スタンドの大きな声や大きな太鼓の響きからは「想い」が伝わるものでした。チームが一丸となっている一体感を強く感じ、改めて、仲間との結束力が本学の強みだと思えました。

本学硬式野球部は、人間形成を土台し日々の学校生活から野球まで「五つの心」を常に持ち生活、野球をするよう取り組んでいます。

五つの心とは、

「はい、という素直な心」

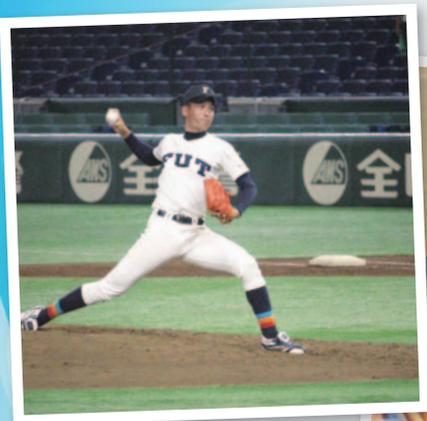
「私が見ます、という奉仕の心」

「おかげさまで、という謙虚な心」

「すいません、という反省の心」

「ありがとうございます、という感謝の心」

私たちは、大学生活の後には社会人として社会に出ていかなければなりません。四年間の大学生活や野球で一人前の人間になるために、学校に行けること、野球ができること、仲間がいること、家族がいること、すべて当たり前ではないことを常に想い「五つの心」を大切に、これからは毎日精進していけるよう取り組んでいきたいと思えます。今後とも本学硬式野球部の応援の程、宜しくお願致します。



学科から

保護者の皆様へ

電気電子工学科から

工学部 電気電子工学科 主任 龍見 雅美

れるよう教員も努力しておりますのでご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



学生実験（主体性とチームワークが大事）

電気電子工学科では「応用力のある実践的な技術者を社会に送り出す」ことを基本方針として教育に取り組んでいます。

日常生活を含めきめ細かな指導をするため、すべての教員が

全学年の学生（10名前後／学年）の担当となり、少なくとも週1回は顔を合わせ勉学及び生活面について相談する機会を設けています。

実践的な技術者を育成するため、全学的に進められているPBLの手法を取り入れ学生実験や卒業研究を充実させ、できる限り学生自身が自主的に考え行動できるよう模索しています。また、ロボット、エネルギー、人工衛星による環境モニタリング等のプロジェクトも活動しており意欲ある学生は参加することができます。ETロボコン2015北陸地区大会では総合優



学科主催企業説明会（緊張しています）

学連携講座及び会社見学会を実施し、ほぼ定常的な採用をして頂いています。また就職で有利となる電気関連の資格取得のために外部講師による補習授業も実施しています。

3年生までに基礎学力をしっかり身につけた上で社会での仕事に近い形で卒業研究及び就職活動に取り組みることにより立派に成長した学生を社会に送り続けら

勝し、全国大会にも出場しています。就職についてはキャリアセンターと連携して進めるとともに、学科独自の取り組みとして関連の深い企業を招いて会社説明会の開催や産

資格試験のための実技補習（悪戦苦闘）



資格試験のための実技補習（悪戦苦闘）



ETロボコン北陸地区大会総合優勝（頑張りました！）

機械工学科から

機械工学科は昭和40年開学と同時に設置され50余年の伝統と歴史を有する学科です。グローバル化の波と知識基盤社会に適合し、未来を見据えて国際社会・地域社会で活躍できる実践的な技術者を目指して、学生の皆さんと教職員が一丸となって取り組んでいます。以下に、学科および学生の皆さんの最近の様子をお伝え致します。

体育祭で総合優勝

5月21日(土)に恒例の体育祭が本学のカール・マイヤーグラウンドにおいて晴天のもとで盛大に実施されました。新入生全員参加の行事です。10チームからなる学科対抗(本学科を含む学生数の多い学科は2チーム編成)の競技において、機械工学科の1チームは総合優勝という素晴らしい成績を挙げました。これは学生の皆さんの団結力・協調性、行動力などの結果であり、これらを勉学・研究をはじめとする学園生活に生かして頂きたいと念じています。

国際色豊かな学科

本年4月に新入生98名を迎えました。この中には女子4名、私費外国人留学生15名が含まれています。現在1〜4年生を合わせて434名(定員360名)の学生が在籍しています。その内39名が外国人留学生であり、出身国はベトナム、タイ、マレーシア、中国などさまざまです。国際感覚の涵養や異文化理解などが求められているなかで、キャンパス内でこれらが養われる国際色豊かな学科です。

技術者理解教育の充実

実践的な技術者の養成を目指す本学科では、機械工学技術者という職種・職業を理解して学びの動機付けを高める工夫を行っています。1年次から3年次までの各学年でOBを含む企業技術者を講師にお迎えして工学セミナーを開催しています。受講した学生からは、自分の将来の姿が具体化した、目標が明確になった、疑問点や悩みが解決したなどの感想が寄せられ好評です。

課外活動への積極的な取り組み

鳥人間プロジェクトは毎年夏に琵琶湖で開催される鳥人間コンテストへの出場を目指して、機体の改良・設計に日夜努力しています。この他、軽自動車耐久、フォーミュラカー、ロボコンなどのプロジェクトに多くの学生が参加し、学年や学科を超えた和やかな雰囲気での目的達成に日々努力しています。これらの活動によって課題設定・解決能力、創造力、共生力などが養われると期待しています。プロジェクト活動以外では、機械設計技術者試験3級や技術士1次試験の資格取得などに取り組みむ学生もあり、教員が適切な指導を行っています。



機械工学の言葉である機械製図の授業風景

工学部 学部長
機械工学科 主任
塩澤 和章

建築土木工学科から

工学部 建築土木工学科 主任 宇治橋 康行

取引士対策講座も39名が受講しています。また、昨年70回に及ぶ対策講座を実施し、4名の合格者を出した技術士補対策講座は、今年度は昨年合格した学生も講師に加わり同様の講座を実施しており10名余が参加しています。学科においても学生への指導・支援を強化しています。

地域と協働するプロジェクトとしては、「ゆりの里リニューアル活動」、「あわら細呂木地区街づくり活動」、昨年ふるさとづくり最優秀賞（総理大臣賞）を受賞した「小原エコプロジェクト」など卒業研究の4年生を中心に3年生、2年生も多く参加あるいは参加を予定しています。このほかにも、福井県総合政策部主催「若者チャレンジプランコンテスト」において、3年が代表を務める2年生も参加している企画「サイクルツーリズムde地域魅力発見プロジェクト」が書類審査及び公開審査会を通過し、採択されました。福井県主催の「若者チャレンジコンテスト」に鯖江バス停デザインプロジェクト チーム名「サバス」が応募し、プレゼンテーションを行う予定です。

このように1年生から4年生までの多くの学生が資格取得や、学外でのプロジェクト活動に積極的に参加し、充実した学生生活を送っています。

本年度は83名の新生を迎え入れることができました。その中には、中国、モンゴル、ベトナム、ミャンマーから計7人の留学生が含まれ、年々国際色豊かになってきています。1年生の皆さんは参禅研修、五月祭（運動会）などの大学の行事を経て、繋がりをづくりながら元気に大学生活を過ごしています。

全学年を通じて資格取得に意欲的な学生が増加しており、有料ではありますが日建学院が本学で開講している2級建築施工管理技士試験（学科）の対策講座に37名、2級土木建築施工管理技士の講座に14名が受講しています。1年生から4年生まで48名が受験申し込み予定です。宅地建物



設計I（建築コース2年生）の授業風景

原子力技術応用工学科から

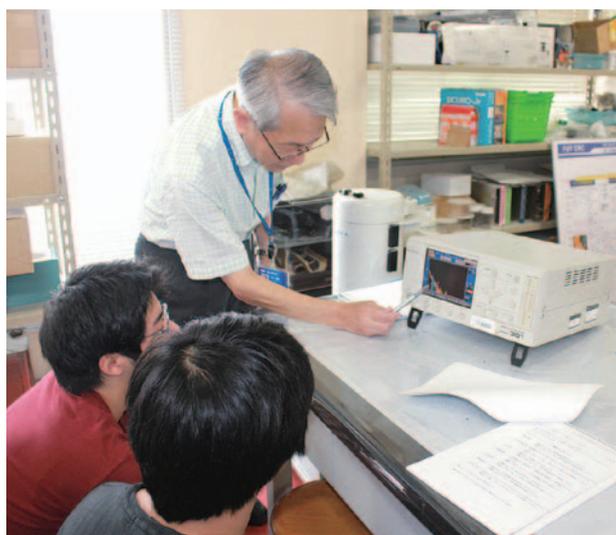
工学部 原子力技術応用工学科 主任 堀池 寛

本学科は原子力や放射線に関連した講義を軸に実験や実習を組み合わせ、多角的な教育を行っています。定員30名の小さい学科であり、そのため同級生間の、あるいは先輩後輩を通じた学生間の風通しが良く、教員にとりましても学生の性格や志向を把握しやすく、それが進路指導等において上手く生かされているように思われます。今年の1年生は入学4か月を経て、2名のベトナム留学生も含めて和気あいあいと授業を受ける雰囲気が出てきました。自身の将来について、キャリアゼミというセミナーを通じて考え始めています。2年生は原子力工学と放



放射線や放射能の測定状況

射線応用のコースに分かれ、専門的な授業が始まっています。それぞれの専門分野に分かれ将来の職業選択を考え始めている段階と思われまます。3年生は研究室に配属され、先輩学生や教員との交流を通じて、卒業研究のテーマ選びや、そのための勉強に着手しています。夏休みには国内各企業での就職活動の準備も兼ねたインターンシップ(夏季実習)が始まります。8月末には選抜された3年生6人と1年生1人が国のプロジェクトに挑り、カナダ・オンタリオ州立大学に短期留学します。文化の違いを肌で感じて考え方を広めてくれると期待できます。4年生は最終学年として研究室に分かれて勉強して来ています。卒業研究に着手し始める傍ら



で、就職や大学院進学への準備に余念がありません。一方、本年1月にはオンタリオ工科大学よりグレン・ハーヴェル准教授が来学され、北米のエネルギー事情について学びました。また7月にはベトナム・ダナン外国語大学よりゴ・グアン・ヴィン先生が来学され、ベトナムと日本との異文化交流セミナーが開催されるなど、学生、教職員と海外の先生方との交流が盛んです。このように学生は各学年それぞれに、これからの人生を有意義に生きるための勉強に努めています。ご家族の皆様からもしっかりと励まして下さいますようお願いいたします。



環境・食品科学科から

環境情報学部 環境・食品科学科 教授 廣瀬 重雄

今回は、学生の皆さんの学習及び生活に関する活動について紹介します。本学では、FTH：課題研究など、通常の講義以外に、グループに分かれて課題についてディスカッションをすることを通して、相互の課題理解を深めるためのプログラムが用意されています。

1学年では、「キャリアゼミ」のプログラムがあり、ここでは、①自己紹介・大学での学びについて考える、②「学びの指針」を利用し、各学科での学びについて考える、③学生生活の送り方、課外活動等について考える及び④大学での



ゼミ形式による科学英語演習の様子

目標を定め、目標達成のための計画を立てる、の各話題についてディスカッションを行っています。2学年では、「課題研究」のプログラムがあり、提案された課題に希望者が集まり、担当教員とともに、課題研究を行い、自身が興味を持った課題に具体的に調査を行い、これをまとめ、さらに結果について報告する、という内容で自身の能力向上に努めています。

3学年では、「メジャーFTH」のプログラムがあり、①これまでの大学での学習について振り返る、②これまでの大学での学生生活について振り返る、③進路について考える及び④将来を見据え、これから何を学び、どのように学生生活を送るべきか考える、の各テーマについてディスカッション形式で互いの情報交換をすることによって、自身の考えをより具体的に客観的に見つめなおす、ということに取り組んでいます。

4学年では、各研究室に配属されて、担当する卒業研究を通して、より高度な専門知識や技術の修得にむけて、日々熱心に取り組んでいます。年度末には、自身の研究成果を卒業論文としてしあげ、かつその成果について発表することになっています。



実験実習



実験実習（実験を通して、内容や技術を習得する）

以上のように、1学年から4学年までの期間に、段階的に自己の専門知識の修得や人間形成について、一度落ち着いて考える機会を設けて、自己の目標を設定や達成度について考えることを習慣づけるプログラムを用意しています。大学生活は、基本的には、自立した人間形成の場として考えられます。計画性を持って4年間の大学生活を過ごすことによって、社会人の一員として十分に活躍できる人間形成が可能となります。

私ども教員も保護者の皆様と共に協力しながら、学生の皆さんの成長を応援してゆきたいと考えておりますので、よろしくお願い致します。

経営情報学科から

経営情報学科は、文理融合の色彩の強い学科であり、文系科目から理系的な科目まで、幅広く科目配置がなされています。1年生では、2年生からのコース分けの準備として、それぞれ3つのコースの基礎をすべて学ぶことが出来ます。例えば、「経営システムコース」の基礎として「簿記原理」という科目がありますし、「政策システムコース」の基礎科目としては、「政策システム概論」があります。また、写真のように、「情報システムコース」の基礎科目として「プログラミング実習」があり、3クラス体制で学生の習熟度に応じて無理のない学びを実施しています。2年、3年生では、各コースにおいて専門を深め、3年後期からは、少人数での「卒業研究」のため現在12ある各研究室に配属となります。

学科プロジェクトでの学生の活動に状況につきましては、例えば、平成27年「ちはやふるweek: E あわれ」において、本学科の教員及び学科を超えた学生が、おでん屋台を展開し、大盛況となりました。また、本学科のロボカップチームは、全国大会優勝により、8年連続で、ロボカップ3Dシミュレーション部門世界大会に駒を進めており、平成28年、ドイツで開催された世界大会に参加し、準優勝の快挙を見せています。また、経営情報学科では、資格取得を強く勧めており、それに応え、例えば、難関試験に挑戦し税理士として働いている先輩もいます。これに続く学生を育てられればと思っています。

各課題に熱心に取り組む様子



2名体制の指導で個々の質問に対応



プログラミング実習における授業全体の風景

環境情報学部 経営情報学科 主任 松岡 博幸

デザイン学科から

環境情報学部 デザイン学科 主任 川島 洋一



「卒業制作展2016」(作品を試す観覧者)

日ごろから福井工業大学の教育と活動に、ご理解とご支援をいただきまして、ありがとうございます。

デザイン学科は設立から8年目を迎え、ますます活動の幅が広がり、また勢いが出てきました。大学での授業は実習や演習科目が中心です。スタジオで作品を制作する経験を通して、実践的に学ぶことがカリキュラムの大きな特徴です。

入学したばかりの1年生は、まずは「造形デザイン実習」で観察力を養い、アイデアを練りな

がら思考力を鍛え、ものづくりの欲びと難しさを味わいます。1年生後期からは希望するコースに分かれて専門的な課題に取り組みますが、学年が進むにつれて課題のレベルが上がり、プロのデザイナーになるための素養を一つひとつ身につけていきます。皆様のご子息・ご息女が、課題提出に追われてプレッシャーに苦しみ、ときには徹夜で作業しているのは、私たち教員が徹夜を強要しているからではなく、締め切りまでに少しでも完成度を上げて納得のいく作品をつくりたいと、若者が限界を超えて挑戦しようとする姿勢の現れなのです。ぜひ温かい目で応援してください。

デザイン学科には、F's Design Studioと呼んでいる学内組織があり、自治体や企業様からデザイン業務を受託しています。教員の指導があるとはいえ、学生は世の中で必要とされている本物の仕事を体験し、見違えるように成長して



「造形デザイン実習」(デッサンの様子)

いきます。その最初のプロジェクトが、入学したばかりの1年生が毎年取り組む「えちぜん鉄道七タアート電車」です。高学年になると、さらに本格的な仕事に参加するチャンスがあります。こうして4年間学んだ集大成が、毎年2月に福井市美術館で開催している「卒業制作展」です(2017年は2月10日~12日に開催予定)。ぜひご父兄の皆様には会場に足をお運びいただき、学生たちのみずみずしい感性の軌跡をご覧になっていただきたいと願っています。



えちぜん鉄道七タアート電車(制作風景)

スポーツ健康科学科から

後援会の皆様には、学生活動支援事業、保護者懇談会事業、広報・通信事業などを通して、日頃から福井工業大学の学生を温かく見守っていただきまして、誠に有難うございます。

本年度4月からスポーツ健康科学部の学部長として赴任いたしました戎利光と申します。取得学位が教育学博士と医学博士ですので、教育学と医学の中間領域を長年研究分野としております。

本学スポーツ健康科学部では、スポーツを科学的に追究する「スポーツ科学」と健康を科学的に追究する「健康科学」の複合分野を追究しています。教員ほとんど全員が、工学、学術、コーチング学、教育学、医学のいずれかの博士号を有し、スポーツの豊富な競技歴や指導歴をはじめ、海外でのコーチ経験者など経験豊富な教員などが学生の教育にあたっています。学生は学内のカリキュラムを積極的にこなし、



講義前の説明

特に現代の学生に不足しがちなコミュニケーション能力を磨き、自らが課題を発見し探求する力が学年を経るに従って見事に向上しています。さらに、英語圏からの教員による英語教育



学生による楽しい課題発表

を受け、充実したキャリア教育の元に学生一人一人が各専門の勉学に励み、インターンシップを経て巣立っていきます。

スポーツ健康科学部でも、将来、コーチとして、また競技者として、或いは研究者として海外で活躍する頼もしい学生が巣立つ可能性もあり、今から海外に目を向けている在生もいます。学生は、グローバルゼーションを意識した意欲的な学生時代を過ごしています。学部長の私自身も1975年～1979年の4年半アメ



発表内容をわかりやすく補足説明

スポーツ健康科学部 学部長
スポーツ健康科学科 主任

戎利光

リカ合衆国で大学院博士課程時代を過ごし、最初の博士号(教育学博士・Doctor of Education)はユタ州のブリガムヤング大学院博士課程で取得した学位です。私が大学生であった40年ほど前には「グローバル化」などという意識は世の中にほとんどありませんでした。
福井工業大学が3学部体制になり新しく生まれかわりましたが、スポーツ健康科学部も学生とともに成長し今後大きく生まれかわりたいと思います。

第 53 回福井工業大学大学祭

激動

2016 10.8 sat 9 sun

お化け屋敷

最強?!のお化け屋敷。一度入ったら出てこれないかもしれない……。あなたは帰ってこられますか？

スタンプラリー (両日開催)

工大内のあらゆるところに隠されたスタンプを集めて豪華景品をゲットしよう!!

BINGO

『東京ディズニーリゾートペアチケット』『PS4』などなど豪華景品盛りたくさん!!

Talk Show

佐藤 健

会場 金井講堂

日時 9 (sun) 開場 15:00
開演 16:00

Ticket S席 2,500yen
A席 2,000yen
B席 (2階) 1,500yen
C席 1,000yen



チケット販売所：ローソン各店 Loppi[Lコード 59252] **受付終了**

○飲酒のご来学、学内での飲酒は禁止です。

○当日は混雑が予想されます。公共交通機関をご利用の上お越しください。

詳しくは右記のQRコードから大学のホームページにアクセスいただき、ご確認ください。

